

再評価結果（平成26年度事業継続箇所）

担 当 課：道路局国道・防災課

担当課長名：茅野 牧夫

事業名 一般国道11号 <small>こまつ</small> 小松バイパス	事業区分 一般国道	事業主体 国土交通省 四国地方整備局					
起終点 自：愛媛県西条市小松町新屋敷 至：愛媛県西条市小松町安井	延長 7.5km						
事業概要 国道11号は、徳島市を起点とし、四国の北部を瀬戸内海沿いに徳島県、香川県、愛媛県の主要都市を経て松山市に至る全長約230kmの幹線道路である。瀬戸内海沿線の各市町村の産業・経済を支える大動脈であるとともに、日常生活に欠かせない生活道路としての役割をもつ重要路線である。 小松バイパスは、国道11号西条市バイパス及び主要地方道壬生川新居浜野田線と一体となり、国道11号のバイパスとして機能し、いよ小松北ICと西条臨海工業団地や東予港とのアクセスが向上するなど、地元産業や経済の活性化に寄与する道路である。							
H3年度事業化	H3年度都市計画決定 (H-年度変更)	H4年度用地着手	H10年度工事着手				
全体事業費	160億円	事業進捗率	約41%	供用済延長	2.0km		
計画交通量	8,000～19,600台/日						
費用対効果 分析結果	B/C (事業全体)	1.4	総費用 (事業費/事業全体)	75/162億円	総便益 (事業費/事業全体)	209/228億円	基準年 平成25年
	(残事業)	2.8	事業費：58/142億円 維持管理費：17/20億円	走行時間短縮便益：166/185億円 走行経費減少便益：32/32億円 交通事故減少便益：11/10億円			
感度分析の結果 【事業全体】 交通量：B/C= 1.4～1.4(交通量±10%) 【残事業】 交通量：B/C= 2.7～2.9(交通量±10%) 事業費：B/C= 1.4～1.5(事業費±10%) 事業費：B/C= 2.6～3.2(事業費±10%) 事業期間：B/C= 1.2～1.6(事業期間±20%) 事業期間：B/C= 2.4～3.2(事業期間±20%)							
事業の効果等 国道11号で発生している慢性的な交通渋滞の解消や、交通量や大型車混入率の大幅な減少による騒音の低減効果による沿道環境の改善、救命救急センターへの搬送時間の短縮による救命率の向上など、多様な整備効果が期待できる。							
①円滑なモビリティの確保 ・現道等の時間損失の削減が見込まれる ・現道等における旅行速度の向上が見込まれる ・国道11号の渋滞緩和により路線バスの利便性向上（旅行速度が改善） ・特急停車駅（壬生川駅、伊予西条駅）へのアクセス向上 ・西条市から松山空港（第二種空港）へのアクセスが向上							
②物流効率化の支援 ・いよ小松北ICと西条臨海工業団地、東予港（重要港湾）の所要時間が短縮し、物流の効率化を支援							
③都市の再生 ・西条地区の地域高度技術産業活性化計画を支援							
④国土・地域ネットワークの構築 ・日常活動圏中心都市（旧小松町～西条市役所）へのアクセス向上							
⑤個性ある地域の形成 ・主要な観光地へのアクセス向上（いよ小松IC～四国鉄道文化館）							
⑥安全で安心できるくらしの確保 ・三次医療施設（東予救命救急センター）への搬送時間が短縮し、重篤患者の救命率向上が見込まれる ・二次医療施設のカバー圏人口拡大							
⑦災害への備え ・緊急輸送道路である国道11号と松山自動車道が通行止になった場合の代替路線を形成							
⑧地球環境の保全 ・CO2排出量の削減が見込まれる							
⑨生活環境の改善・保全							

- ・ NOX、SPM排出量の削減が見込まれる
- ・ 騒音レベルが夜間要請限度を超過している現道で、要請限度を下回ることが期待

⑩その他

- ・ 小松バイパスへ交通が転換することにより現道区間の交通安全（歩行者・自動車）向上が期待

関係する地方公共団体等の意見

地域から頂いた主な意見等：

- ・ 周辺の自治体である西条市より、積極的な整備促進について要望活動が続けられている。

愛媛県知事の意見：

- ・ 小松バイパスの再評価に係る「対応方針(原案)」案については異議ありません。
小松バイパスについては、今治小松自動車道へのアクセス強化や交通混雑の緩和を図る重要な道路であり、全線供用に向けた整備の促進をお願いします。

事業評価監視委員会の意見

- ・ 「事業継続」とする事業者の判断は「妥当」である。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

- ・ 平成18年5月 (主) 壬生川新居浜野田線 (東予有料道路) L=3.5km 無料化
- ・ 平成19年2月 (主) 壬生川新居浜野田線 開通
- ・ 平成20年3月 (一) 丹原小松線 開通
- ・ 平成20年3月 (一) 南川壬生川停車場線 開通
- (その他)
- ・ 平成19年4月 大型ショッピングセンター(西条市新田) オープン
- ・ 平成19年11月 観光エリア(鉄道歴史パークinSAIJO) オープン

事業の進捗状況、残事業の内容等

- ・ 平成25年5月末で用地取得率約33%、平成25年3月末で事業進捗率約41%。

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

- ・ 起点部(L=400m)区間について、平成24年度に地元設計協議を行い平成25年度には用地調査に着手する。
今後起点部(L=400m)区間について計画的に事業を進めていくとともに、東予地域の道路整備事業等による交通流動の変化にも注視しつつ事業を展開していく。

施設の構造や工法の変更等

- ・ 今後も新技術、新工法の採用による工事コストの縮減に加えて、施設の長寿命化や維持管理費を考慮した構造等の採用等、総コストの縮減に努めていくこととする。

対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

- ・ 以上の事業効果等の内容、事業評価監視委員会における審議、知事等の意見を踏まえると、事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。
 ※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。